



## 我が子に残すお金はないが、そのお金の代わるものがあるとのこと？

「『読書習慣』と『4つのしつけ』による我が子への贈与」の巻

校長 濱田 清明

「年金が65歳からになりますと、退職後、ある程度のお金が必要になります。現状のままでいきますと、〇,〇〇〇万円足りません。」  
 (そんなに必要なの？ 家のダンスや畳の下を探してもお金はないし……。子どもたちに残すお金もない！ どうしよう。)



最近、保険会社や金融関係の方が、頻繁に私の老後のことを心配し(？)、やたらと老後の必要経費の資料を見せ、保険の加入を勧めてきます。老後は自分が暮らすだけで精一杯で、3人の息子に残す預金がないことが分かり、暗くなるばかりです。

さて、読書の秋となりました。子どもたちには生涯を通して、本から学んだことを生活に生かしてほしいと考えています。理由は、混沌とした世の中を生き抜くには、思考力が大切であり、その思考力を高めるには読書が有効だからです。読書を習慣化するには、本の読み聞かせと大人が子どもと一緒に読書をするのが大切です。学校では朝読書の時間を週3回設けています。また、最近、校長室の前に仕掛け絵本を置き、読書への関心を高めています。

親が子どもに読書を習慣化させたことは、3,000万円を贈与したのと同様と言われていきます。その点からいきますと、私は、(子どもたちに残すお金はないですが、)絵本を読んだり、本を買ってあげたりしたことは確かですので、3,000万円とはいきませんが、1,000万円くらいは贈与した計算になるかと思えます。保護者・地域のみなさん、いかがですか？

お金のことで言いますと、「しつけと年収」について研究をした神戸大学西村和雄教授は、「親から『4つのしつけ』を受けた人は、そうでない人との年収の比較で、84万円の差が出る」と発表しました。40年間働いたとすると(84万円×40年=3,360万円)、親が、我が子に『4つのしつけ』をしっかりやっていたら、約3,000万円残せたこととなります。



## 【4つのしつけ】

- ①「ウソをついてはいけない。」
- ②「他人に親切にする。」
- ③「ルールを守る。」
- ④「勉強をする。」

『4つのしつけ』は、河崎小学校の3つの約束に似ています。これらのしつけによって年収に差がつくのは、しつけが勤勉性をつちかうためだと研究者は言っています。保護者・地域のみなさんは、自分がなされているしつけの中に、この4つが含まれていますか？

最後になりますが、ぜひとも、『読書習慣』と『4つのしつけ』を意識し、日ごろの家庭教育に入れていきませんか。なお、『読書習慣』と『4つのしつけ』を身に付けられた子どもたちは、大人になってから約6,000万円を贈与されたとは思えないかもしれません。大人になった我が子に「約6,000万円を既に与えたぞ。」とでも言うものならば、「そんなのより、実際の金がほしい。」と反発されるから、言わない方が良いでしょう。年を重ねるうちに、また、親がいなくなってから、しつけられたことへの大切さと感謝を感じることでしょう。

※キムタク(木村拓哉)の年収は〇億円という情報がネット上に流れました。ルックスとスタイルの遺伝という点からいきますと、私は3人の息子に謝ったことがあります。「ごめんな。お父さんに似れば、ジャニーズ系のルックスとスタイルになり、芸能人として活躍するなど、お金儲けをすることができたのに。」ちなみに、これを聞いた息子たちは無反応でした。私のルックスとスタイル(???)を遺伝させることは難しいので、せめて、今後も『読書習慣』『4つのしつけ』を意識し、教育を行っていきます。もちろん、親・教員である我が子どもの手本となるようにしていきます。